



あしたへつなぐ

Vol. 152



文／本間 吾里砂

計画的な踏切設備の整備、踏切の廃止・休止、踏切事故防止キャンペーンなどを実施
踏切内のトラブルを防止し、より安全な踏切の実現を目指す

四つの柱を基本に

踏切事故防止対策を推進

踏切でのトラブルは、人命に関わる事故や脱線事故など、重大事故を引き起こす原因ともなります。JR北海道では、「踏切設備の整備」「踏切の廃止・休止」「啓発活動の実施」「陳情及び要請の実施」を四つの柱とし、踏切事故防止に努めています。

「踏切の廃止・休止」は、道路の立体交差化、踏切の統廃合等により、道路と鉄道の交差を解消し、事故防止につなげることがねらいです。「踏切設備の整備」では、踏切の視認



踏切事故防止キャンペーン

性向上を目指し、オーバーハング型警報装置の設置、警報灯の全方向化を推進するなど、より安全な踏切の実現に向け、計画的に整備を進めています。踏切内のトラブルを列

車に知らせる「支障報知装置」、踏切内で立ち往生した自動車自動的に検知し、列車に知らせる「障害物検知装置」など、列車との衝突事故を防ぐための装置も整備しています。「啓発活動の実施」では、交通ルール順守の徹底を目指し、定期的に「踏切事故防止キャンペーン」を実施。特に急列車の客室内情報表示装置、車内放送や駅構内のデジタルサイネージ等で踏切事故防止を呼びかけるほか、小学校や幼稚園、自動車学校などを訪問しての呼びかけなども行っています。「陳情及び要請の実施」では、国・道・市町村の道路管理者をはじめとする

関係機関の理解と協力を得て、より強力に踏切事故防止対策を推し進めています。

架線の電圧は二万ボルト 接触の危険性周知も

JR北海道では踏切事故防止対策とともに、踏切でのトラブル対処法や危険性の周知にも力を入れています。

踏切内に車が閉じ込められた際の対処法は、車でそのまま断ポールを押して踏切内から脱出します。しゃ断ポールが降り切つてから早いときには約十五秒で列車が来るため、迅速に行動に移すこと



警報灯の全方向化



支障報知装置(非常ボタン)

が大切です。また、車が踏切内で動かなくなったときは、非常ボタンか車の発煙筒で列車を止める手配をすること。警報機のある踏切には、踏切内でトラブルが発生した際、目撃した人が速やかに通報できるようにフリーダイヤル(無料通話)の注意看板を設置しています。

一方、クレーン車のブーム、ダンプの荷台下げ忘れによる架線や通信ケーブルとの接触及び切断は、感電や事故につながるだけでなく、莫大な損害賠償金が発生することもあります。踏切を通行する際、車両の高さが四・五メートルを超えると架線等に接触する危険性があるため、注意が必要です。架線には二万ボルトの高圧電流が流れており、風やビニール類などが電線に引っかかっても、自分で取ろうとせず、近くの駅に連絡するよう注意喚起しています。